

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【生きる】 2【かかわる】 3【そなえる】	④【夢や希望の大切さ】夢や希望を持つことは、生きる価値を見いだすことであり、つらく厳しい状況乗り越えられることにつながることを実感する。 ⑩【県内外や海外の人々とのつながり】苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に感謝し共に協力することの大切さを実感する。 ⑫【自分と地域社会】自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きとしたまちづくりにかかわる。 ⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。 ⑰【自然災害の歴史】過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災、減災について理解するとともに、次の世代へ語り継いでいく	総合 (1日間)

【題材】 岩泉町小本地区被災地学習

【対象】 小川中学校第1学年（男子12名、女子8名 参加）+副校長、1学年所属教師3名

【実践への経緯】

H25より学年毎に被災地を訪問して、被災や被害の様子について学習し、現地で復旧・復興に携わる人と共に視察しながら学び、被災者との交流を実施している。1年生は、H26は昨年度の1年生に引き続き岩泉町小本地区を訪問することとなった。

【日程】

< 9月5日（金） >

7:40 小川中学校集合・出発 ※中型バスで移動

8:20～小本駅臨時駐車場 ガイドさん乗車

被災地見学・水門→小本の街→茂師港

} (1)

10:30～移動

10:50～小本中学校1年生との交流会

} (2)

11:50～交流会終了、バス移動

12:00～昼食（弁当）・休憩

12:50～小本支所着（復興課長 菊地辰美氏の案内）

13:00～小本地区の復興についての視察

（畑中組 高速道路現場監督）

} (3)

13:50 バス移動

14:00～小本仮設住宅の方との交流会（集会所）

} (4)

15:10 交流会終了・仮設住宅出発

16:00 小川中学校着

【主な実践の詳細】 ※日程右の（ ）に対応

(1) 被災地見学

雨模様の中、岩泉観光ガイド協会の織笠さんのガイドで、バスの車窓から、水門、小本の住宅街等の被災地を見学。小本で亡くなった3人の方のお話や昔の家が津波で流されやすかった話など詳しい説明がされる。後半では、三陸ジオパークの茂師地区を歩き、地層等について学んだ。



(2) 小本中学校 1 年生との交流会

大牛内の仮設校舎を訪問し小本中の 1 年生と交流。始めに小川中の生徒が質問をして学校生活の様子を聞き、その後、4つのグループに分かれて、校舎を案内してもらい、校舎の狭さ、特別教室がないこと、小学校と共有のスペースが有り自由に使えないこと等を学んだ。その後、お互いのメッセージを込めた合唱を対面して歌い、体育館に移動。小本中は、中野七頭舞を披露し小川中はソーラン節をお返しに踊った。一緒に楽しいひとときを過ごし、別れを惜しみながら校舎を後にした。



「小本中の一年生は、みんな明るくて元気な人たちでした。特に演技をしている時は、生き生きとしてかっこよかったです。」 (女子生徒K)

(3) 小本地区の復興についての視察

小本地区で復興が進んでいる工事現場を視察。岩泉町役場の復興課長であり、小川中学校の同窓会長・学校運営協議会長でもある菊地辰美さんなどから、新しく造成されている住宅地、高速道路、新設される小本小中学校の校舎等の工事の進捗状況などについて説明を受けた。崩した山の土砂が 10 トンダンプで 2 万 4 千台分にもなること、H27 年 4 月より住宅着工予定であることなどを知り、生徒は実際にイメージをしながら、話に聞き入っていた。



(4) 小本仮設住宅の方との交流会

最初に生徒が交流会のお知らせをしに仮設住宅を回って歩いた。かなりの住民が仮設から出て新しい生活を始めていたこともあり、集まってくれた住民は 7 人あまりであった。心を込めて、合唱やソーラン節をプレゼントした後、お菓子等を食べながら、和やかに交流をした。何を話してよいか戸惑う生徒もいれば、上手に話題を提供しながらコミュニケーションを取っている生徒もいて様々であった。



「仮設住宅の方とは、お手玉を一緒にして、どうやればうまくできるのかななどを教えてもらって楽しかったです。」 (女子生徒K)

【まとめ】 同じ町内の人たちが被災したこと、同じ中学生が不便な学校生活を強いられていること、それらの人たちのために、少しでも早い復興につなげるために日夜頑張っている人たちがいることを実際に目の当たりにし、自分たちも強く生きなければならないと決意を新たにす機会となった。「夢や希望を持つことの大切さ」「人とのつながりの大切さ」「学力や体力の大切さ」を提言という形でまとめた。